

## 世代間交流としての里孫活動の概括的研究

聖徳大学 永嶋昌樹 (6855)

キーワード：世代間交流、里孫活動、擬似的な祖父母-孫関係

## 1. 研究目的

総務省統計局の報道資料によると、わが国の高齢化率は平成 22 年 9 月 15 日現在で 23.1%であった。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2050 年には 37.8%にも達する見込みである。また、厚生労働省の平成 21 年国民生活基礎調査によれば、全世帯数に占める三世帯世帯の割合は 8.4%である。これを昭和 61 年の 15.3%と比べると、減少傾向は顕著である。このような現状から、今後、高齢者の割合が増え続けたとしても、血縁関係にある祖父母と孫の日常的な関わりは減少していくと考えられる。

近年、世代間の関係の希薄化に対する危惧から、積極的な世代間交流の必要性が叫ばれるようになってきた。世代間交流とは、「子ども、青年、中・高年世代の者がお互いに自分達の持っている能力や技術を出し合って、自分自身の向上と、自分の周りの人々や社会に役に立つような健全な地域づくりを実践する活動」(草野, 2004)とされる。特定の世代の組み合わせのみを対象とした概念ではないが、高齢者と子ども、祖父母世代と孫世代を対象とした取り組みが多く報告されている。

そのような取り組みの中に、「里孫」と呼ばれる活動がある。「里孫」とは、お互いが血縁関係にない高齢者と子どもが、擬似的な祖父母-孫関係を結ぶということから、「里親」や「里子」を模して作られた造語である。従って、国語辞典、現代語辞典、福祉用語辞典等のどの辞書・辞典類を調べても見当たらず、定義も未だに存在しない。

本研究では、刊行文献及び Web 検索により、全国で行なわれている里孫活動を概観し、その全体像と現状を明らかにすることを目的とした。これまでに「里孫」活動の個々の事例を発表した文献はあるものの、「里孫」という取り組み全体を概観した研究はない。そのため、まずは「里孫」活動の表面的・形式的な面を主に比較していくこととした。

## 2. 研究の視点および方法

文献検索は、社会学文献情報データベース及び国立情報学研究所 GeNii : NII 学術コンテンツ・ポータルを用い、「里孫」がキーワードである文献を検索した。また、Web 検索では 2 つの検索エンジン (Google, Yahoo! japan) を用い、「里孫」が含まれる Web サイト・文書・画像等を検索した。

検索エンジンの特性の違いを考慮し、それぞれの検索結果より上位 250 件の Web サイト・

文書・画像等の内容を全て確認した。なお、「…里、孫…」や人名等、明らかに里孫とは関連性がないと判断できる Web サイト・文書・画像等、さらに海外の「里孫」活動に関するものは除外した。

上述の方法により抽出した「里孫」活動を実施している、または実施していた機関・団体等に対し、研究の趣旨を説明の上、電話または訪問による聴き取り調査を実施した。聴き取り調査の内容は、活動・制度等の名称、活動形態、活動が行なわれている地域、実施主体、里孫の所属、里孫の学年・年齢、里孫の訪問場所、実施期間（有期無期の別）、活動・制度が開始された時期、活動内容、その他、である。これらと比較し検討した。

なお、聴き取り調査の実施期間は、平成 22 年 9 月～10 月である。

### 3. 倫理的配慮

学校・施設等関係者への電話および訪問による個別調査の際には、研究者の所属・氏名を明らかにし、本研究の趣旨を説明した上で聴き取りを行った。質問内容は学校・施設等の対象機関・団体の活動様態に関するものであり、対象機関・団体および特定の個人の名誉やプライバシー等を侵害するおそれはないが、対象機関・団体の固有名詞の使用は控えることとした。

### 4. 研究結果

里孫活動は、そのほとんどが学校・社会福祉協議会等と福祉施設・事業者等の機関・団体が相互の連携で実施している。そのため、学校・社会福祉協議会からと、福祉施設・事業者からの 2 方向の発信が想定された。実施主体とそれに対応する機関・団体について、各々他方の団体名等が記載されている場合は、両者間で行なわれている「里孫」活動であると判断し、1 つの事例と考えた。調査時点で、刊行文献あるいは Web 上で確認できた「里孫」活動・制度等の事例は 16 件であった。そのうち 3 件が既に活動を中止、1 件が休止中であった。また、実施機関・団体に確認が取れない等の理由により、実態の把握が困難なものが 2 件あった。結果として、実際に活動している「里孫」の事例は 10 件であった。

Web 検索により連絡先が確定できる 14 件の事例（活動中止等を含む）を対象に、それらに関与している 19 の機関・団体等に聴き取り調査を実施した結果、活動は全国の 9 都道府県（北海道、岩手県、茨城県、千葉県、東京都、富山県岡山県、広島県、長崎県）に分布していること、初めて開始された時期は 1969（昭和 44）年であり、2004（平成 16）年に開始された事例がいちばん最近であること等が判明した。

なお、「里孫」は基本的には、高齢者 1 人に対して特定の里孫が 1 人付き、一定期間、仮の祖父母・孫関係を結ぶという活動であるが、高齢者と子どもが「1 対グループ」、「2 対グループ」という組み合わせの事例も存在した。